

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No.158



2008.4

●本を捨てる、10年後を考えて ●新入生のための図書館紹介！

- 平成19年度利用学生モニター（本館）の活動報告
- 教員等著作寄贈図書一覧
- 静岡大学学術リポジトリ公開
- 図書館の動き
- 図書館利用セミナー（ペイシック編）開催のお知らせ
- 開館日程（4月～7月）

本を捨てる、10年後を考えて



附属図書館長 加藤憲二

春が巡ってきて、本棚の整理をした人も少なくないのではないだろうか。受験参考書に決別し、静岡大学にこられた新入生諸君には「ようこそ」を、研究室の書棚を整理して研究生活にピリオドを打たれた先生には「ごくろうさま」を心から送りたい。わたしたちはそれぞれの人生の過程で、必要な本に囲まれている。情報の電子化が進み、机の上からノートが消えて、速報性が重要な意味を持つ研究情報の多くは電子化されても、やはり本は、その時々のわたしたちの人生の伴侶として身の回りにあることが多い。

信州から静岡の大学宿舎に移った7年前に、私はずいぶんの本を捨てた。埃にまみれ、時代の中で私自身もアレルギーを感じるようになって、一層手に取ることもまれになっていた本を捨てるこ

とにあまり未練を感じることも無かった。私の書棚にあった本は松本の古本屋の店先に二束三文で積み上げられた。高校時代から眺めていたいくつもの背表紙は網膜の中にのみ残し、人生の後半に向かうのだぞという気持ちもいくらかあった。今は書棚がひとつ。父親から貰った岩波の『寺田寅彦全集』が一段の半分を飾っているがあとは本やら書類やら。読みかけの本は枕元辺りに積み上げてある。50の半ばを過ぎてもっと身軽に、という思いこそあっても、本に囲まれた書斎を持ちたいという気持ちはもう無い。限られた時間を生きる一人の人間として、これはこれでよいのだろうと思う。では、図書館はどうか。

わが静岡大学附属図書館も他間に漏れず毎年数千冊の本を購入するので、もう図書館はいっぱい

である。蔵書数110万冊あまり。これが毎年増加を続けている。捨てなければ、増える。では、どの本を捨てればよいのだろうか。どのような手続きを経て、本を捨てていけばよいのだろうか。附属図書館の図書の購入に関しては、図書館の司書と教員による選定委員会があるほか、ユーザーの声を聞くシステムもあり、これに加えて学生だけで図書を選んでもらう仕組みも用意されている。平成19年度には図書館職員と学生モニターの数名が30万円の予算で静岡の町に出て、手に取って本を選んでもらう試みも実施。残念ながら30万円は使い切れなかつたようだ。ところが、本を捨てる仕組みは、実はまだ整備されていないのである。

4年前に、全国90あまりの国立大学は一斉に法人化した。今まで国立大学として良くも悪くも文部科学省の傘の下にあったものが法人となって大学も様々な事柄から直接社会の一員であることを思い知らされることが多いが、<資産>という考え方もその一つかもしれない。静岡大学の資産は、いくらだと思いますか？約600億。多くが土地と建物だがその一部を図書館の書籍がしっかりと占めている。仮りに1冊3千円とすれば33億円。図書は、時間の経過で評価額が下がるのではなく一定、という基準があるそうですから購入額のまま資産となって積み重なっていきます。しかしながらこれもきわめて大事なことだが、建物が生み出す空間もまた資産です。増え続ける本に合わせて書庫を大きくすることは考えにくいから、当然重要度の低い本から処分していく必要があるでしょう。では、<重要度>をどのように決めるか。書庫を歩いてみると、どうも誰も手に取っていないだろうなという背表紙が見受けられます。「将来的ひとりの読者のために」というのが図書館にとっては重要な役割であると言われますが、教育と研究を支えるためにある大学附属図書館が数十年の間にわたってどのようにその機能を最大限に発揮するか、をしっかり考えなければいけないところへ来ているようです。

研究の最先端を教育に反映させることは大学の重要な機能だが、そのほとんどは電子情報となっ

て流通している。静岡大学のメンバーなら大学のどのような場所からでも多くの情報にアクセスできる環境は<多くの>と言うところに限界があるが、すでに日常となっている。10年後もおそらくこれは大きく変わらないだろう。問題は、コスト。今、電子情報に費やす経費は約1億円。お金の話が続いて恐縮だが、これは図書館の全ての予算のおよそ半分に達している。この価格が世界の大手出版社によって決められており、毎年の値上がりは、減少する予算を眺めるにつけため息が出ます。知恵を出さねば。で、手に取って見る蔵書の方ですが、電子情報で管理された本（静岡大学は残り3分の1の未入力分の電子情報化を急いでいます）は簡単に利用頻度が分かります。何年間か全くユーザーの手に触れなかった本は、捨てる対象にしても良いかもしれない。その作業の前に、学生用図書ではすでに参考図書としての役割を終えている本がありそうですから、これは教員の目で判断してもらって図書の減量に早速取りかかることができるのではないだろうか。

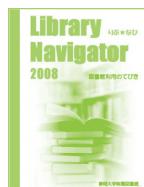
さて、冒頭の話に戻します。わたしたち自身の身の回りの本は、自分自身がこれから迎えるであろう<時間>に対して、ある種の判断をして<もういらぬだろう>と決めることができる。それは、私の時間こそは様々な制約があっても<私のもの>だから。しかし、地球上に存在する全ての生物に寿命があるわけではありません。私の研究対象である原核生物と呼ばれる微生物には、寿命の概念は当てはまりそうにない。これに対して、多細胞の真核生物にはおそらくほとんど全てに誕生時にあらかじめ遺伝的に決められた生存時間としての<寿命>が組み込まれていると考えられます。わたしたちホモサピエンスの場合の最大寿命は

110年くらい。さて、大学附属図書館、あるいは静岡大学には後どれくらい、その使命を担う時間があるのだろうか。一国の教育は百年の計、という言葉がかつてあったように思いますが、今、20年後を見通すのは容易ではないように感じます。10年が精一杯かもしれません。さて。

新入生のための

図書館紹介!

図書館は、静岡キャンパスに本館、浜松キャンパスに浜松分館があります。



利用案内は
『りぶ★なび』を
みてね。

正面玄関を入ると、そこはなぜか 4 階！？ 実際に来館して検証してみよう



静岡本館



ひろ～い閲覧室



南側の窓から見る景色は抜群！ 遠くに見える山が、まるで“逆”ダイヤモンドヘッド (in ハワイ) ! ?



ぼくがどこかにいるよ
探してね



“さそり座” 照明
でも、なにか変?
星座図鑑で調べてみよう



浜松分館

2階雑誌ブラウジング
コーナー

中庭に面した開放感あふれる
1階閲覧席

ソファーに座ってゆっくり
読書を楽しもう！



平成19年度利用学生モニター（本館）の活動報告

「利用学生モニター」は、図書館利用者の大部分を占める学生のみなさんからの意見・要望を反映させるために平成13年度から行っている附属図書館長の私的な会合の制度です。平成19年度は15名の応募があり、意見・要望を聴くモニター会議に出ていただいた他に、図書館の活動にも参加していただきました。

1. モニター会議

11月1日と2月18日の2回行いました。加藤附属図書館長を囲んで、お菓子とジュースが出る和やかな雰囲気の中、自己紹介から始まり様々な意見・要望が出されました。

その際の意見と図書館からの回答は、附属図書館ホームページ「広報／刊行物」をクリックしたページのトップに「学生モニター会議報告」として載っています。



平成19年11月1日のモニター会議風景

2. 高校生図書館見学のアシスタント

毎年たくさんの高校生が附属図書館の見学に訪れています。図書館職員が10名くらいずつのグループを閲覧室や書庫に案内するのですが、平成19年度はその見学ツアーにモニターにも同行してもらい、職員と一緒に図書館の案内をしてもらいました。

3. 学生用図書の選定

学生モニターによる学生用図書の選定を、初めて平成19年度に実施しました。

選定は、直接書店の書棚から選ぶ方法と、Webリクエストへ入力してもらう方法の2種類で行いました。

書店での選書には6名の参加があり、絵本やベストセラーなど通常学生用図書では購入しないものを含め102冊が選定されました。5階の階段横に別置してありますので、ご利用ください。



書店での選書風景（平成19年12月21日）

平成20年度利用学生モニター（本館）を募集しています。

図書館に興味のある方、意見のある方どなたでも歓迎します（新入生もモニターになれます）。

モニターにはモニター証が発行されて、書庫にも自由に入ることが出来るなど特典あり！

図書館カウンタに来て「モニターになります」と言っていただくだけでOK（ただし人数制限があります。申込はお早めに！）。

みなさんが利用する図書館をよりよくするため、ご協力をお願いします。

～教員等著作寄贈図書一覧～

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧にしたものです。(各館五十音順)

●本館受入

◇浅野勉（理学部）

- A survey of polymer crystallization by X-ray diffraction SKP

静・書庫[433.5/A87] <著>

◇荒川紘（名誉教授）

- 教養教育の時代と私 石榴舎

静・開架/書庫[370.4/A63] <著>

◇今井駿（名誉教授）

- 四川省と近代中国：軍閥割拠から抗日戦の大後方へ（静岡大学人文学部研究叢書）汲古書院

静・書庫[222.35/I43] <著>

◇内田恵（教育学部）

- 語用論（英語学入門講座）英潮社

静・開架[830.1/U14] <共著>

◇大野旭（人文学部）

- ユーラシアと日本：交流と表象の現状と課題：報告書 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本交流と表象」研究プロジェクト編

静・書庫[210.1/N76] <報告>

◇小和田哲男（教育学部）

- 駿府の大御所徳川家康（静新新書） 静岡新聞社

静・開架新書[289.1/TO360/S] <著>

- 戦国時代は裏から読むとおもしろい！：「敗者から見たもうひとつの戦国合戦史」（青春文庫）青春出版社

静・開架文庫[210.47/O93/B] <著>

- 戦国の城（学研新書） 学習研究社

静・開架新書[210.47/O93/S] <著>

- 「戦国武将」名将のすごい手の内（知的生きかた文庫） 三笠書房

静・開架文庫[210.47/O93/B] <著>

- 名城と合戦の日本史（新潮選書） 新潮社

静・書庫[210.4/O93] <著>

◇今野喜和人（人文学部）

- 啓蒙の世紀の神秘思想：サン=マルタンとその時代 東京大学出版会

静・書庫[135.3/KO75] <著>

◇杉山公男（農学部）

- アミノ酸の機能特性：ライフサイエンスにおける新しい波 建帛社

静・開架/書庫[491.42/A45] <執筆>

◇田島慶吾（人文学部）

- 現代の企業倫理（静岡大学人文学部研究叢書）大学教育出版

静・書庫[335.15/TA26] <編著>

◇遠山弘徳（人文学部）

- 現代資本主義への新視覚：多様性と構造変化の分析 昭和堂

静・書庫[332.06/Y19] <執筆>

- 資本主義の多様性：比較優位の制度的基礎 ピーター・A・ホール、デヴィッド・ソスキス編
ナカニシヤ出版

静・書庫[332.06/H21] <訳>

◇外山知徳（名誉教授）

- 家族の絆をつくる家：失敗しない住まいづくりのための30講 平凡社

静・開架[527/TO79] <著>

◇永松巖静（元法科大学院教授）

- 法の論理と企業の倫理 商事法務
静・書庫[335.15/N15] <著>

◇布川日佐史（人文学部）

- 生活保護における自立支援プログラムの検討：厚生労働科学研究研究費補助金政策科学推進研究事業

静・書庫[369.2/SE17/2005] <主任研究者>

- 策定と援助 山吹書店

静・開架[369.2/F72/1] <編著>

◇本多隆成（人文学部）

- 東海道を歩く 吉川弘文館

静・開架[291.5/H84] <著>

◇三重野哲（理学部）

- プラズマ・イオンビームとナノゲクノロジー
シーエムシー出版

静・開架[549.1/KA37] <執筆>

◇矢野敬一（教育学部）

- 熊谷元一作品から探る阿智村時空探検隊：阿智第一小学校4年2組の学び：平成18年度長野県コモンズ支援金事業報告書 長野県下伊那郡阿智村教育委員会

静・開架/書庫[382.152/Y58] <編集>

- ふるさと阿智村ものがたり：熊谷元一作品からみる阿智村のくらし 長野県下伊那郡阿智村教育委員会

静・開架/書庫[382.152/Y58] <編集>

◇安永愛（人文学部）

- 裏社会の日本史／フィリップ・ポンス著
筑摩書房

静・開架[210.5/P79] <訳>

●分館受入

◇相原憲一（工学部）

- 「気づく」能力 ITSC静岡学術出版
浜・開架[336/A24] <著>

◇浅田寿生（名誉教授）

- 力学・波動（実用理工学入門講座） 日新出版
浜・開架[423/R41] <著>

◇岡島いづみ（工学部）

- 超臨界流体のはなし 日刊工業新聞社
浜・開架[431.3/SA43] <著>

◇齋藤保久（元創造科学技術大学院）

- ・生物集団の数学 上巻 日本評論社
浜・開架[461.9/TH4/1] <著>

◇佐古猛（創造科学技術大学院）

- ・超臨界流体のはなし 日刊工業新聞社
浜・開架[431.3/SA43] <著>

◇竹内康博（創造科学技術大学院）

- ・理論生物学入門 現代図書
浜・開架[461/R47] <著>

◇浅田寿生（名誉教授）・古門聰士・田村了・藤間信久・星野敏春（工学部）

- ・量子力学入門:物質科学の基礎 学術図書出版社
浜・開架[421.3/R97] <著>

◇中島伸治・野田直剛・藤間信久・星野敏春（工学部）

- ・力学・波動（実用理工学入門講座）
日新出版
浜・開架[423/R41] <著>

●本館・分館共通受入

- ◇林部敬吉（情報学部）・雨宮正彦（情報学部）
・伝統工芸の『わざ』の伝承：師弟相伝の新たな

可能性 酒井書店

静・書庫[750.21/H48]/浜・開架[750.21/H48] <著>

◇久島茂（教育学部）

- ・はかり方の日本語（ちくま新書） 築摩書房
静・書庫新書[081/C44/S648]
浜・開架[815.2/KU87] <著>

◇小西潤子（教育学部）

- ・音楽文化学のすすめ：いま、ここにある音楽を理解するために ナカニシヤ出版

静・書庫/浜・開架[760.13/KO75] <共著>

◇福田明（創造科学技術大学院）

- ・基礎通信工学 森北出版
静・開架/浜・開架[547/F74] <著>

◇増沢武弘（理学部）

- ・南アルプスの自然 静岡県環境森林部自然保護室
静・開架/浜・開架[471.72/MA69] <編著>

◇森口恒一（人文学部）

- ・明治以降の静岡県方言に関する文献目録
静岡大学人文学部言語文化学科
静・参考/静・書庫/浜・参考[818.54/ME25] <監修>

●静岡大学学術リポジトリ公開しました●

[Http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/](http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/)

みなさん、
気軽に利用して
ください。



● 論文名や著者名などで検索し、論文の閲覧が可能

静岡大学学術リポジトリとは、静岡大学が設けるインターネット上の電子書庫のことです。本学の研究者等による学術研究成果物（学術論文等）を収集・永続的に蓄積保存しインターネットを通じて無償で学内外へ発信するためのものです。学内で生産された学術情報の一元管理および発信を行い、大学のブランドイメージの向上を図ります。利用者はGoogleなどを使い、世界中のどこからでも論文の検索・閲覧が可能になります。

リポジトリは世界中の大学や
研究機関が運用をしています

論文入手したいときに、
Google Scholarなどで検索すると、無料
で全文を閲覧できる場合があります。
<<http://scholar.google.com/>>

教員の皆様、登録にご協力をお願いします

図書館の動き

◆会議等

第54回国立大学図書館協会総会

<平成19年6月28日(木)於: J A L リゾートシーホークホテル福岡>

附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長が出席。

92大学・機関が出席し、協会活動についての経過報告に続き平成18年度決算報告、平成19年度事業計画(案)・予算(案)などについて協議が行われた。また、文部科学省研究振興局情報課長から、近年の国立大学を取り巻く動向、学術研究をめぐる動向、学術情報基盤をめぐる最近の動向、平成20年度概算要求などについて所管事項説明があった。

平成19年度静岡県大学図書館協議会総会

<平成19年7月30日(月)於: 静岡大学>

附属図書館長、学術情報部長、図書館情報課長、副課長が出席。

17館から22名が参加し、平成18年度経過報告のあと、平成18年度決算報告(案)及び同会計検査報告、平成19・20年度の役員等の選出、平成19年度事業計画(案)及び同予算(案)などについての協議が行われた。引き続き、静岡大学教育学部小和田哲男教授による「司馬文学と歴史研究」と題した講演が行われた。

平成19年度第2回附属図書館委員会

平成19年7月5日(木)

○審議事項

1. 平成18年度図書館経費決算について
2. 平成19年度図書館経費予算(案)について
3. 平成19年度学生用図書購入費の配分(案)等について
4. 静岡大学学術成果リポジトリ検討部会要項の改正について
5. その他

○報告事項

1. 附属図書館利用状況について
2. 平成19年度第1回附属図書館浜松分館WGについて
3. 平成19年度図書館利用セミナー(ベイシック編)の実施報告について
4. 平成19年度図書館利用セミナー(アドバンス編)の実施について
5. 図書館公開イベント「のぞいてみよう 大学の図書館」について
6. 研究室貸出図書の点検予定について
7. 国立情報学研究所(NII)の平成19年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業について
8. その他
 - (1) 外部出席会議等について
 - (2) 電子ジャーナル&二次資料データベース利用統計について

平成19年度第3回附属図書館委員会

平成19年10月16日(火)

○審議事項

1. 寄贈図書等受入基準について
2. 電子ジャーナル及び二次資料データベースの現状と今後について
3. その他

○報告事項

1. 平成19年度オーバーヘッド(研究インフラ等整備)配分による追加予算について
2. 静大図書館NewsLetterの発行について
3. 秋の図書館利用セミナーについて
4. 学生による学生のための選書キャンペーン(浜松分館)について
5. テクノフェスティバル浜松における写真展の開催について
6. 図書の購入手続(検収方法等の変更)について
7. 静岡大学学術成果リポジトリ検討部会について
8. その他
 - (1) 外部出席会議等について
 - (2) 電子ジャーナル及び二次情報データベース利用統計

平成19年度目録システム地域講習会(図書コース)

<平成19年8月1日(水)~3日(金)於: 静岡大学附属図書館>

県内各図書館から16名の受講者を迎え、国立情報学研究所(NII)との共同主催により開催された。NACSIS-CATセルフランニング教材による講義が初めて行われ、受講者は目録業務のスキルアップを習得できた。また、最終日の昼食時間に懇親会を催し交流が図られた。静岡大学主催での初めての講習会であったが、成功裡に開催することができた。

写真展「写真でつづる静岡大学の軌跡」

<平成19年11月10日(土)~11日(日)於: 静岡大学附属図書館浜松分館>

浜松キャンパスで開催された「第12回テクノフェスティバル浜松」の展示企画として、静岡大学の前身「浜松高等工業学校」時代からのキャンパス風景や学生の様子を写した写真パネル35点及び、関連資料の展示を行った。当日は浜松工業会創立80周年記念事業も開催され、昔の写真を懐かしむOBなど、両日で200名を超える来場者があり、写真展は盛況のうちに終了した。

◆人事異動

平成19年10月1日付

長谷川敬司(経理・契約チーム主任→研究協力・情報図書チーム主任(分館資料担当))
齋藤 勝麗(研究協力・情報図書チーム主任→附属特別支援学校・幼稚園事務係長)
小野 華子(図書館マネジメントスタッフ→学術資料スタッフ(雑誌情報担当))

これから新たに静岡大学で学び、学生生活を始める新入生の皆さんへ

図書館利用セミナー(ベイシック編) 開催のお知らせ

附属図書館では「図書館利用セミナー(ベイシック編)」を4月から6月にかけて、新入生セミナーの1コマで実施します。このセミナーで図書館の基本的な利用方法や資料の探し方をマスターしましょう。もし、「授業で課題が出たけど、どうしよう?」「必要な資料はどこ?」ということがあつたら、そんな時こそ、セミナーで身に付けたチカラが役に立ちます。

セミナー内容

図書館の利用方法

(図書館サービスおよび施設・設備案内)

- ・図書館ホームページ・WEBサービスの紹介
- ・本学所蔵資料の探し方(OPACの使い方・検索実習)
- ・学外機関所蔵資料の探し方(WebcatPlus 他)
- ・館内ツアー(本館:書庫、浜松分館:閲覧室)

図書館は皆さんの場所です。上手に活用して、より充実した学生生活を過ごしてほしいと思います。

いつでも気軽に図書館へ来て、読書や勉強、ときにはリラックスできる空間を楽しんでください。

開館日程〔2008年4月～7月〕

4月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

- | | |
|--|------------|
| | 9:00～22:00 |
| | 9:00～19:00 |
| | 休館 |

※開館日・開館時間は変更されることがあります。
臨時に休館する場合は、別途お知らせします。

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第158号 (平成20年3月30日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4474 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

